

北海道浮魚ニュース

平成17(2005)年度13号 (通巻 No.202)

2005年 8月 29日

北海道立水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2005年8月22日～26日
 - ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖）
 - ・調査船：金星丸（イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）
- 昨年（2004年8月18日～26日）のデータと比較しました。

**分布密度は渡島半島沖で低く、他では比較的高い傾向を示した。
魚体サイズは昨年よりも小型。**

1. 水温分布（図1、2）

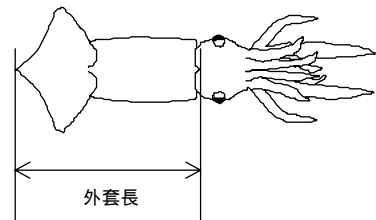
表面水温は、20.0～21.6 の範囲にあり、昨年に比べ0.2～2.9 高い値を示していました。深度50m層の水温は、11.0～14.5 の範囲にあり、昨年よりも0.3～3.8 高い値を示しました。St.8における50m層の水温が特に低い値を示していました。

2. 分布密度（図1、2、表1）

漁獲調査を行った3地点のCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は、3.4～26.7（昨年：2.3～24.3）でした。St.1では昨年の1/3、他2点では昨年を上回っていました。また、平均CPUEは17.9であり、昨年よりも高い値でした。

3. スルメイカの大きさ（図1、2、表1）

スルメイカの外套長（胴長）は、調査点全体で15～26cm（昨年15～26cm）の範囲にありました。モード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は19～20cmにあり昨年（モード20～23cm）に比べると、小型でした。



4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの密度分布は、渡島半島沖で低く、浦河沖や下北半島東沖では比較的高い傾向にありました。また、魚体は全海域で昨年よりも小型であると考えられます。

（文責：函館水産試験場資源管理部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）

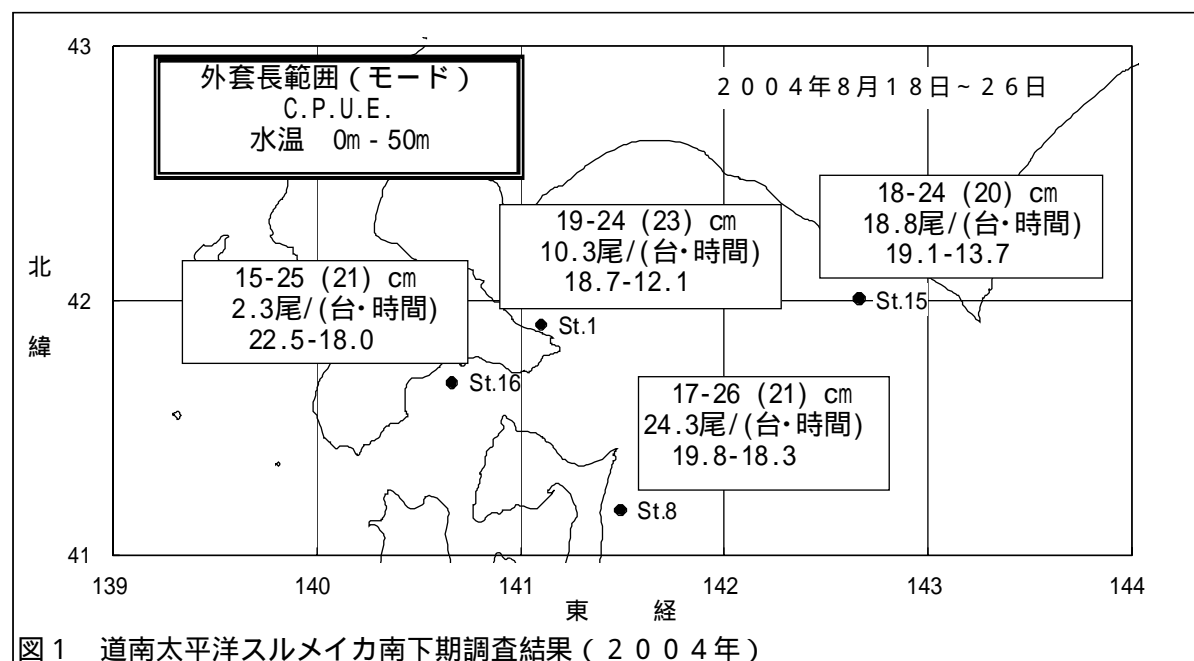
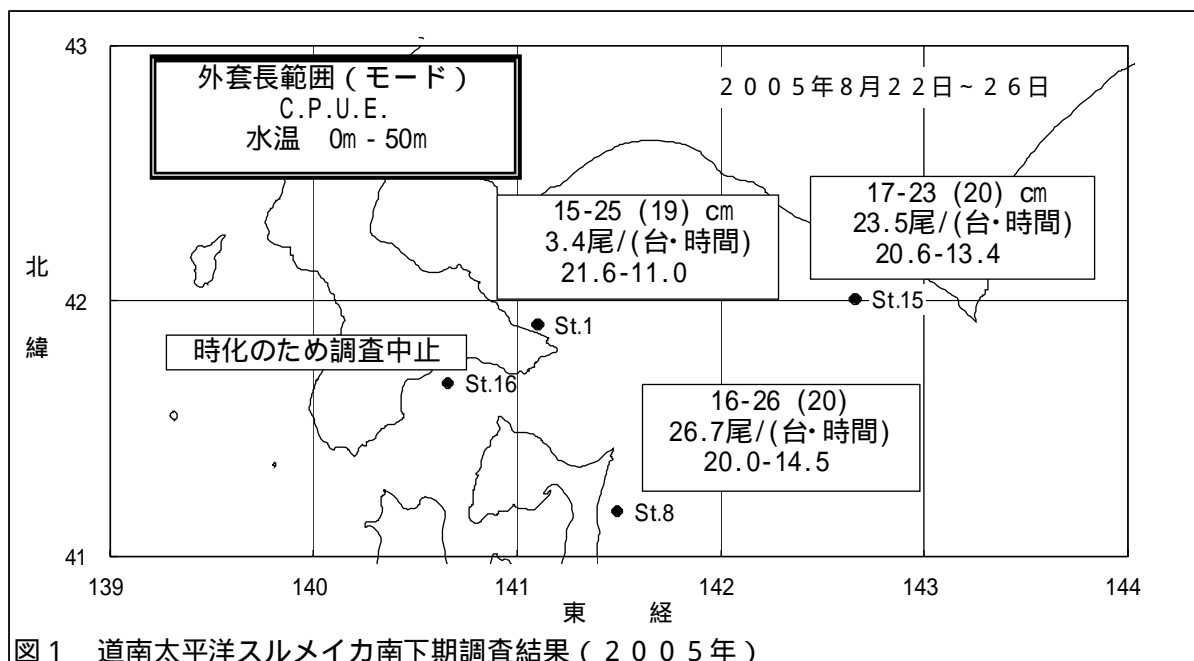


表1 道南太平洋スルメイカ南下期調査時のC P U E と外套長の経年変化

調査を実施した点の	2000(H12)	2001(H13)	2002(H14)	2003(H15)	2004(H16)	2005(H17)	
平均CPUE (尾/台・時間)	9.7	47.1	19.2	23.2	13.9	17.9	
外套長の範囲(cm)	11-28	17-29	18-28	12-27	15-26	15-26	
外套長モードの範囲 (cm)	15-21	20-22	22-24	15,21	20-23	19-20	
水温 ()	表層	22.0-25.4	20.1-23.4	19.1-20.1	18.7-21.3	18.7-22.5	20.0-21.6
	50m層	8.0-20.1	12.1-17.4	11.3-18.4	10.8-16.6	12.1-18.3	11.0-14.5